

発行 ◆ 平成 23年 ** 月 * 日

実乗山 正明寺

〒590-0964
堺市堺区新在家町東4-3-15
TEL 072-223-1905

正明寺だより

南無阿弥陀佛

東日本大震災発生から半年以上が過ぎましたが、その傷跡はあまりにも大きく、今後も長期間にわたる救援活動が必要とされています。そして、この震災で亡くなった方々へのご回向が、全国で勤められているところです。正明寺においても、檀信徒の皆さまとともに、各法要・朝参り会・詠唱会などにおいて、これからも念仏を申し、供養を捧げてまいりたく思います。

すでにご報告のとおり、法然上人八百年大遠忌法要は、大震災の発生を受け延期となりました。総本山知恩寺は本年10月に勤められ、増上寺・知恩寺の各大本山は、来年4月にそれぞれ勤められる予定です。

なお、正明寺からは来年の4月21日(土)に、大本山知恩寺へ団体参拝を企画しております。詳しいパンフレットは、あらためてお届けいたします。

します。50年に一度の大法要でございますので、ぜひご参加くださり、ともに念仏の修養をさせていただきます。ありがとうございます。

合掌

知恩寺の法然上人像



浄土宗開宗当時の上人43歳の觀智ほとばしる人柄を写し、数ある法然上人像の中でも最も古く室町時代のすぐれた尊像であります。また、お弟子の源智上人の筆で、「法然上人御骨」と書かれた和紙に包まれたご遺骨とご遺髪が、胎内に納められています。

地震津波横死者への供養 菩提を願う大阪の石碑

「安政南海地震」が今から約160年前にあり、津波が海上交通の要所であった大阪を襲いました。記録によると、大型の廻船が市中に押し上げられるなど多大な被害があり、多くの人々が亡くなりました。左の写真は、その供養石碑です。



四天王寺の元三大師堂の前に無縁墓があり、その最上段中央にこの石碑が積み上げられている。

安政南海地震の石碑としては、大阪市浪速区幸町と堺市大浜北町にある石碑が、以前から知られていましたが、近年、四天王寺において、この石碑の存在が確認されました。

○東面(正面)には、

南無阿弥陀佛

諸国地震及洪水 水陸横死大菩提

とあり、地震・津波で亡くなられた方々への供養塔であることがわかります。

横死とは、災禍などのため、天命を全うしないで亡くなること、不慮の死を意味します。

○南面には、

地震の前日から海鳴、潮の干満に乱れがあったと記されています。

この前日には東海地震が発生していました。

○西面には、

このような現象が起こった時には、津波の前兆であるから災難を避けるように、との後世への教訓があり、安政二乙卯秋建立と結ばれています。

古い文書に、「(地震・津波の惨状は)筆紙に尽し難く恐敷事に候其追善之為天王寺元三大師前に石塔建立之事」記述もあつたのですが、その存在が確認されていませ

んでした。しかし、昨年、大阪の研究者・長尾武氏が、同所の無縁墓を詳しく調査した結果、それに該当する石塔(石碑)が確認されたのです。

この石碑には、前述のごとく、供養の意と教訓が記されています。大阪に住む私たちに、地震と津波による災害を思い出させ、防災意識を高めるためにも、たいへん重要な石碑でもあります。現在は無縁墓と一緒に積み上げられ、その存在も忘れられていたわけですが、今後は、その供養や保存対策が講じられることが願われています。

南無阿弥陀佛



四天王寺・元三大師堂前の無縁墓全景

参考文献:長尾武著 『安政南海地震津波(1854年)の犠牲者供養石碑 四天王寺(大阪市)の無縁墓地調査より』 (上段と下段の写真も同文献から転写)